

令和6年度第3回公立中学校の部活動の地域連携・地域移行に係る市町担当者会議

1 日時

令和7年3月14日（金）10:00～12:30

2 実施方法

エソール広島

3 内容

（1）視察研修報告

①熊本県熊本市

②兵庫県神戸市

（2）令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（実証事業）報告

①広島県 ②福山市 ③府中町 ④海田町 ⑤安芸高田市 ⑥三原市 ⑦府中市

⑧三次市 ⑨広島市

（3）令和7年度吹奏楽部地域連携・地域移行に係る支援体制について

（4）グループ別協議

4 協議内容（グループごとに異なるテーマに沿って協議）

【方向性の決定】

- ・いろいろな方の意見を聞いて方針を決める必要がある。検討委員会をはじめ、大学の先生やスポーツクラブの担当者などにも協力をいただくと良い。
- ・方針がないと、逆算して取り組むのが難しい。
- ・方針を示した後は、体験会等を実施しながら周知したり、こどものニーズを把握したりすることが大切。

【指導者や協力者の確保】

- ・スポーツ団体との連携、地域住民等へのヒアリング、大学との連携などがあげられる。責任をどこまで求めるかといった課題も踏まえ、持続可能な指導者の確保が必要になってくる。
- ・それらも踏まえた上で、人材バンク等を検討していきたい。

【企業からの支援】

- ・財政的支援…企業版ふるさと納税、企業からの寄付などがあげられるが、どういった目的や用途で行うか、また、企業にとってのメリットを示さないと支援を受けるのは難しい。億単位の寄付があったという他県の例もあるときいている。
- ・人的支援…クラブチームで活動する人や、学生時代に競技を経験した人たちの協力を得ら

れる可能性はある。広報の仕方次第ではないか。

- ・物的支援…企業の施設を借りて交流をすることで、生涯スポーツ、文化芸術活動の推進につなげていくこともできるのではないか。

【企業以外からの支援】

- ・クラウドファンディングやふるさと納税、助成金などのワードも出てきたが、テーマが難しく、十分に深めることはできなかった。
- ・方針案や方向性が出ないことには、これらを考えるのが困難である。

【地域住民等への周知と理解】

- ・実際に、複数の市町がリーフレット、チラシを作成している。まだそれができていない自治体は、方針、方向性が決まっていない自治体。案内をしたくても、出せる情報がないといった状況である。
- ・地域住民等に「市が（地域移行を）単独でやろうとしている」という認識が見受けられる。学校運営協議会や保護者説明会等で丁寧な説明をすることが大事。

【地域の資源・活用できるもの】

- ・学校支援ボランティア制度を新しく立ち上げた市町もある。

5 参加者の声

（１）会議を終えての感想

- ・部活動の地域移行は教育委員会のみで進めていくイメージが強かったのですが、まずは地域や関係団体等に丁寧に説明するとともに、互いに共通理解をもった上で協議し、基本的な方針を示していく必要があると思いました。
- ・本町は方針を公開し、今後は詳細を詰めていく段階なので、先進的に地域クラブ活動を実施されている自治体の事例を参考に、令和７年度中の一部地域展開を実現したい。また、将来的には市町を超えた地域クラブ活動への参加は少子化による部員減少問題解消の一助となると考える。
- ・どの市町も少しずつではあるが取組が進んでいるようであったが、受け皿の確保や人材等の資源の確保、学校の理解の促進等、課題はたくさんあるように感じた。本市としては、地域づくりにつながる取組を推進していきたいと考える。

（２）今後の会議に向けての要望

- ・県としてのある程度の方向性を示していただけたら幸いです。
- ・各市町、各地域では、生徒・保護者・地域・教職員等に、公立中学校の部活動の地域連携・地域移行の実施への理解を求めることに苦慮しているのではないのでしょうか。地域連携・地域移行の具体例を数多く提供して下さっていますが、多くの市町は、「それらを実施する根拠や後ろ盾に乏しく、関係者に説明することが難しい」と感じています。